

皆さん、おはようございます。長い夏休みが終わり、今日から第二学期が始まります。

一学期の終業式で、私は皆さんに「この夏休みは、目標をしっかりと設定して、中味の詰まった毎日を過ごしてください。」とお願いしました。振り返ってみて、どうですか。満足のいく毎日を過ごせた人もいれば、少し怠けてしまった人もいることでしょう。

しかし、怠けた人もこれで全てが終わるという訳ではありません。そう、今日から新学期が始まるのです。学校生活には、こうした節目があるのがいいですね。ダラダラした生活に体がなまってしまったり、自分には無理だと何かをあきらめてしまったり、悲しいことや嫌なことがあったりしても、再び前を向いて歩き始められるチャンスが何度か巡ってくるのです。それが節目です。節目は、一度折れかかった心を復活させ、新しい一歩を踏み出す勇気を与えてくれます。

これから始まる二学期には、大きな行事や大切な活動がたくさんあります。学校行事としては、体育祭、修学旅行、総合的な探究の時間の成果中間発表や、高校祭など盛りだくさんです。それはそれは楽しく充実した日々になるでしょうが、同時に次から次へと現れる大きな壁との闘いにもなることを覚悟しておいてください。計画通りに物事が進まなかったり、あきらめてしまいたくなくなることにぶつかったり、時には、仲間と意見が食い違ったりすることがあると思います。しかし、そうした課題を乗り越えることで、皆さんは確実に「生きる力」を身に付けていけるはずなのです。

私は、人生に必要な「生きる力」とは、「逆境に負けず回復する力」だと考えています。「逆境に負けず回復する力」とは、鋼のような強くたくましい力ではありません。むしろゴムボールのようにへこんでも元に戻る力であったり、竹や柳のようにしなやかに相手を受け止める力であったりします。

何をやってもうまくいかない八方ふさがりの時に、人はどうしたら自分を回復できるのでしょうか。その時に大切になるのは、自分の性格や特徴を知り、それを肯定的に捉えられているかどうかだと、私は考えます。

「自分に自信が持てない」という短所は、見方によっては、「それだけよく考えて行動できる」という長所と捉えることもできます。「気が弱くてはつきり断れない」は、見方によっては、「優しく相手の気持ちを大事にできる」とも捉えられます。「細かいことを気にしすぎる」は、見方によっては、「それだけ物事を真面目に深く考えることができる」とも言えるでしょう。自分を肯定的に捉えることで、人は自信を取り戻し、回復することができるのです。

世の中は、実は、自分の見方、考え次第で、どのようにでも捉えられるものです。自分の弱みだと思っていることも、実は強みに変えることができるのです。二学期は、「自分には無理」「自分にはできない」とできない理由を考えるのではなく、自分の考え方を冷静に見つめて、「こうすればできるかもしれない」とできるための工夫をして、何事にも挑戦してほしいと思います。

そうです。今日、二学期の始まる日に、私から皆さんにプレゼントする言葉は「挑戦」です。

「挑戦」するためには、もちろん仲間が必要です。いつも言うことですが、仲間とともに「学び合う心」「支え合う心」「高めあう心」を大切にして、無理だと決めつけず、いろいろなことに挑戦して行ってほしいと思っています。二学期の様々な行事や学習活動を通して、挑戦し成長していく皆さんの姿が見られることを、とても楽しみにしています。ますます元気な野村高校となるよう、生徒の皆さんと私たち教職員で力を合わせて頑張りましょう。

以上で、二学期始業式の挨拶を終わります。